

待降節第4主日 2019年12月22日

救い主の誕生

マタイ1章18-24節

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎（たい）の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れた。

説教

天使がやってきて受胎告知をおこないますが、ルカ福音書ではマリア、マタイ福音書ではヨセフと告知相手がちがっています。ルカでは告知後マリアの賛歌がありドラマチックな展開の福音なのでとくに印象に残りますが、マタイでは「預言の実現」とあり、ちょっとかたくなる感じですが。

このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。マタイ1:22-23

「本当の名前は両親しか知らない」未開の地にいまも暮らす人たちのなかに

そんな風習がある、と聞いたことがあります。ふだんの生活では通り名（通称）をつかい本当の名前を誰かに知られることを畏怖していた。本名が知れると魂をとられるという信仰があるのではないかと解説していました。

インマヌエルという呼び名は聖書の中にはマタイの 1:23 のほかにはイザヤ書 7, 8 章にでてくるだけです。民俗学的解釈をすればイエスというのは通り名で、本当の名前は一回しか記録されていないインマヌエルなのかもしれません。「神は我々と共におられる」インマヌエルはこのような意味だとマタイは伝えます。

イエスの言ったこと、行ったことを福音書は詳しく書き記し、それに応答して模範として生きることをわたしたちは目指しています。イザヤ預言の実現、イエスの誕生によってインマヌエルの意味が明らかになり、さらに深まりました。

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。マタイ 18:20

「わたしの名によって集まる」マタイ福音書が記録している「わたし」とは「イエス」であり「インマヌエル」= 神は我々と共におられる、です。マタイ 18:20 を読んだわたしは長い間、イエスさまがうっすらと幽霊みたいに同席されているというイメージをもっていました。でも、それは違います。インマヌエルのイエスさまは一人ひとりのところの中において「二人または三人が集まれば」よりハッキリとしたお姿で現れるということです。聖霊によってみごもられたマリアさまは特別なお方です。でも同じようにイエスを信じるわたしたちもインマヌエルのイエスを自分自身の身体（からだ）のうちに宿していることを聖書は証言しています。クリスマスを目前にしてわたしたちは「我々と共におられる」インマヌエルのイエスさまを待ち望み、罪深いわたしたちを見捨てることなく憐れみをかけてくださる神に感謝し賛美しましょう。
